

痴呆高齢者が望むケア

— 痴呆患者会への意識調査より —

呉大学看護学部

平岡敬子

山内京子

岩本由美

論文要旨 痴呆高齢者のケアは、本人だけでなく彼らを取り巻く家族等も同様に、心身ともにケアが必要な状況にある。痴呆高齢者とその家族等が望む高齢者ケアを知るために、彼らを対象とする意識調査を実施した。その結果、痴呆高齢者とその家族等は、高齢者ケアに対して、多くのことを期待しており、それを提供する立場である医療従事者の役割は大きいことがわかった。特に、精神的ケアや日常的なケアを重視している。また、痴呆高齢者とのコミュニケーションをより充実させることを期待している。なお、介護保険制度については、それを有益とみなす者とそうでない者とがほぼ同数であり、審査の過程や地域間格差について問題視していた。しかし、介護保険制度に対する否定的な回答と最も相関していたのは、保険料が高いことであった。

キーワード：痴呆高齢者、高齢者ケア、意識調査

■ はじめに

高齢社会をむかえたわが国にとって、高齢者ケアは現代医療の中で解決すべき重要な課題である。とりわけ、痴呆高齢者のケアは、本人だけでなく彼らを取り巻く家族等も同様に、心身ともにケアが必要な状況にある。そこで、痴呆高齢者とその家族等が望む高齢者ケアを知るために、彼らを対象とする意識調査を実施した。すなわち、痴呆高齢者と彼らを支える家族等が、高齢者ケアの中で何を重視し、何を期待しているのか。また、彼らを救済する制度となるはずの介護保険制度をどのように考えているのかについて、明らかにした。

■ 研究方法

1. **研究対象**：A県「B痴呆患者の会」に所属する痴呆高齢者とその家族等
2. **研究方法**：自作の無記名自記式質問紙による郵送法

3. **調査期間**：平成11年12月から12年4月
4. **調査項目**：高齢者ケアへの期待10項目、介護保険制度の満足度10項目等
5. **データの収集方法**：A県の「B痴呆患者の会」に調査の主旨を説明し、調査の協力を依頼した。代表者の了解が得られた後、調査票は患者会から各会員に配布され、協力の得られる者のみが回答し、返信用封筒で返送された。調査票の前文で研究目的を説明し、回答したくない項目については、回答する必要のない旨を明記した。
6. **データ分析方法**：統計ソフト SPSS を使用し、クロス集計、 χ^2 検定等の分析を行った。

■ 研究結果

A患者会の会員694名のうち、257名より回答を得られた（回収率37.0%）。有効回答率は設問によって多少異なるが、80.9%から100%の間であった。

連絡・別刷請求先

ひらおか けいこ

〒737-0004 呉市阿賀南2-10-3 呉大学看護学部

1. 対象の概要

対象者257名の内訳は、患者本人が64名（24.9％）で、患者の家族あるいは親族、知人が144名（56.0％）であった（図1）。「痴呆高齢者の会」という患者会の性質から、痴呆患者自身よりも家族等の方が多かった（但し、49名は無回答者であった）。性別（N.A.の1名を含む）は、女性198名（77.0％）、男性58名（22.6％）で、圧倒的に女性が多かった（図2）。年齢は、60代（97名、37.7％）が最も多く、次に50代（72名、28.0％）であった。70代以上も56名（21.8％）おり、対象者の6割が60代以上の高齢者であった（図3）。家族構成は夫婦のみで生活している者（94名、36.6％）の方が、子どもと同居している者（87名、33.9％）よりも多く、単身者は26名（10.1％）であった。

患者会の参加年数は、6年から10年の者が最も多く（80名、31.1％）、11年以上の者も69名（26.8％）いた（図4）。患者会への加入動機としては、「精神的な支えを求めて（113名、44.0％）」入会した者が最も多く、次いで「病気に関する情報を得るため（67名、26.1％）」や、「仲間づくり（30

名、11.7％）」であった。また、患者会の活動については満足している者が多く、7割以上が「大変」、あるいは「かなり満足している」という回答を示した。

しかし、約半数の110名（42.8％）が、医療に対する何らかの不満をもっていると回答しており（図5）、不満の内容を分類すると、「施設・設備・システム（42名、38.2％）」、「医者への態度（27名、

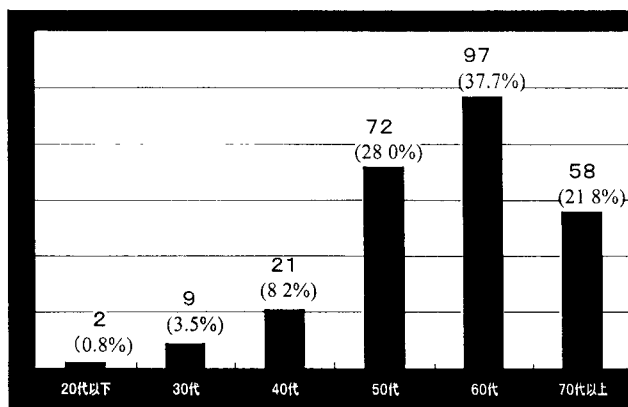


図3 年代別 (N=257)

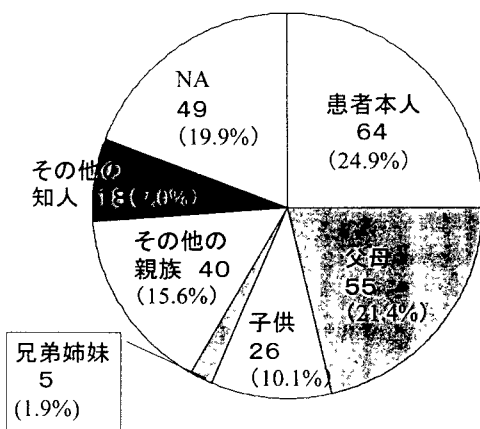


図1 患者との関係 (N=257)

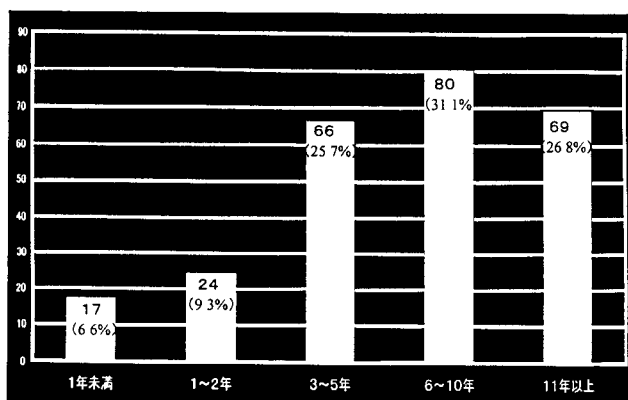


図4 患者会への参加年数 (N=256)

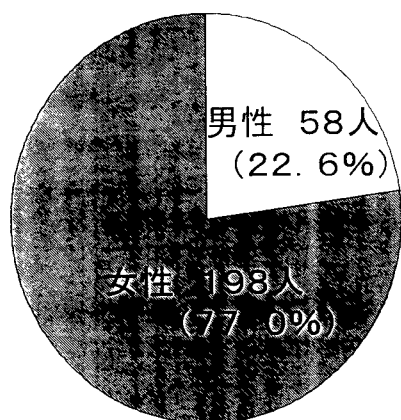


図2 性別 (N=257)

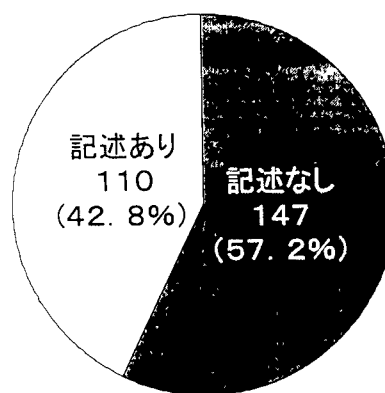


図5 医療についての不満 (N=257)

24.5%)」,「インフォームド・コンセント (21名, 19.1%)」,「過剰診療 (19名, 17.3%)」等であった。

2. 痴呆高齢者とその家族等が重視する高齢者ケア

対象者が、高齢者ケアの中で重要であると思うものを抽出することで、彼らが期待する高齢者ケアを明らかにすることを試みた。すなわち、「思いやり・愛情」,「高齢者に対する尊敬の心」,「健康管理」,「食事や排泄など日常生活の援助技術」,「救急蘇生や緊急処置のような医療技術」,「手術などの治療技術」,「コミュニケーション技術」,「老年学の知識」,「リハビリテーション技術」など、実際の高齢者ケアにおいて、医療従事者が求められる9つの役割の中で、対象者が重要であると考えているものすべてを回答するよう設問した。

その結果、対象者のほとんどすべてが「重要である」と回答した項目は、「思いやり・愛情 (238名, 92.6%)」であった (図6)。高齢者との相互理解を深めるために必要な「コミュニケーション技術 (218名, 84.8%)」,「食事や排泄の援助のような「日常生活の援助技術 (210名, 81.7%)」についても、大多数の者が重要であると回答した。また、高齢者に対する「尊敬の心 (173名, 67.3%)」や老人の生理などの「老年学の知識 (158名, 61.5%)」,「リハビリテーション技術 (150名, 58.4%)」に関しても、過半数の者が重要であると回答した。一方、手術などの「治療技術 (24名, 9.3%)」や救急蘇生や緊急処置のような「医療技術 (67名, 26.1%)」に関しては、それほど重要であると考えられていなかった。これらの結果は、対象が痴呆高齢者本人であろうが、その家族等であろうが、回答に差は見られなかった。

しかし、対象の性別による回答の差が見られた。

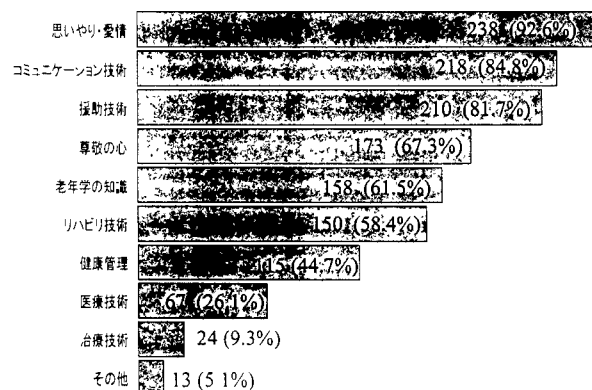


図6 重視される高齢者ケア (複数回答)

女性 (121名, 61.1%) は男性 (28名, 48.3%) よりも「リハビリテーション技術」を重視する傾向あり、女性の6割以上が重要であると回答していた。また、「尊敬の心」を重視しているのは、年齢別に見ると、高齢者層よりもむしろ若年層の方であった。50代以上で重要であると回答したのは、6〜7割であったが、40代以下では8割の者が重要であると回答した。さらに、「老年学の知識」を重視しているのも、これから高齢者になる世代であった。30代から50代の7〜8割は「重要である」と回答したが、60代以上では6割に満たなかった。一方、70代以上の高齢者は「医療技術」を重視する傾向が見られた。70代以上の4割が重視する回答をしたが、60代以下では2割程度であった。

対象者の世帯別の回答を比較すると、単身者、あるいは夫婦のみの世帯の回答に特徴が見られた。特に単身者は「日常生活の援助技術」を重視する傾向が強く、単身者 (24名, 92.3%) の9割以上が重要であると回答した。また、「医療技術」を重視する傾向も単身者に見られた。単身者以外で「医療技術」を重要であると回答した者は2割程度であったが、単身者 (11名, 42.3%) では半数近い者が「重要である」と回答した。さらに、「老年学の知識」については、単身者、夫婦のみの世帯が重視する傾向にあった。単身者の7割 (19名, 73.1%)、夫婦のみの6割以上 (61名, 64.9%) が重要であると回答した。

患者会への参加年数による差を検討すると、参加年数が長くなるほど、「コミュニケーション技術」を重視する傾向が見られ、11年以上の者 (65名) の94.2%が重要であると回答した ($p < 0.05$)。

医療に対する不満の有無との関係を検討すると、医療に不満のある者 (76名, 69.1%) はそうでない者 (82名, 55.8%) と比べ、「老年学の知識」を重視しており、その割合が有意に多かった ($p < 0.05$)。反対に、「思いやり・愛情」については、医療に不満のある者 (95名, 86.4%) は、そうでない者 (143名, 97.3%) ほど重視していないという結果も見られた ($p < 0.01$)。中でも、「医療技術」や「施設、設備、システム」に不満のある者は、「思いやり・愛情」を重視する回答が有意に少なかった ($p < 0.05$)。また、数は少ないが「営利主義」に不満のある者 (9名) は、そうでないものと比べて、「医療技術」,「治

療技術」,「老年学の知識」を重視する回答が多かった ($p<0.05$)。

3. 介護保険制度に関する意識

介護保険制度は、痴呆高齢者の生活支援と密接に関係する制度である。そこで介護保険制度の有益性について尋ねてみたところ、「有益である (39名, 15.2%)」あるいは「どちらかという有益である (89名, 34.6%)」と回答した者と「有益ではない (34名, 13.2%)」あるいは「どちらかという有益ではない (82名, 31.9%)」とが、ほぼ同数であった (図7)。男性よりも女性の方が、支持しない回答する割合が多く、有益でないとする者 (55%) の方が過半数を占めていた ($p<0.01$)。

介護保険制度の問題点を尋ねると、「審査が不透明であること (189名, 73.5%)」や「地域により格差があること (184名, 71.6%)」, 制度以前に「受けていたサービスが受けられなくなること (169名, 65.8%)」に多く回答が集中していた (図8)。反対に「保険料の負担が不公平であること (51名, 19.8%)」や「サービスを利用した場合の1割の自己負担が高いこと (59名, 23.0%)」, 「毎月支払う保険料自体が高いこと (72名, 28.0%)」に関しては、さほど問題として認識されていなかった。しかし、介護保険制度に対する否定的な回答と最も相関している問題点の項目は、「保険料が高いこと」であった ($r=0.217$, $p<0.01$)。また、「受けていたサービスが受けられなくなること ($r=0.169$, $p<0.05$)」や「審査が不透明であること ($r=0.138$, $p<0.05$)」, 「サービ

スを利用した場合の1割の自己負担が高いこと ($r=0.127$, $p<0.05$)」もわずかではあるが、それぞれ相関していた。

■ 考 察

以上の結果を踏まえて、痴呆高齢者とその家族等がどのような高齢者ケアを望んでいるかを考察する。まず、痴呆高齢者とその家族等は、高齢者ケアの中で、どちらかという「思いやり・愛情」, 「尊敬の心」のような精神的なものや, 「援助技術」, 「コミュニケーション技術」のような日常的な援助技術を重視している。したがって、彼らは医療における治療的なかわりよりも、生活に密着した日常的なケアを充実させることを期待していると言える。また, 「コミュニケーション技術」を重視する者も非常に多かった。とりわけ、患者会への入会年数が高い者、すなわち痴呆との付き合いが長い者ほど, 「コミュニケーション技術」を重視する傾向が強かったことから、痴呆高齢者とのかかわりの中で、コミュニケーションがどれだけ重要であるかが推察される。そのような回答の背景には、現実の医療の場面で、医療従事者は痴呆高齢者が満足するようなコミュニケーションをもっていない実態も見え隠れする。

次に、痴呆高齢者とその家族等は、高齢者ケアに関して非常に多くのことを期待していることが推察される。どの項目についても重視する回答が多く、それは同じ時期に実施した他の患者会の調査結果と比べても顕著であった。例えば, 「思いやり・愛情」, 「尊敬の心」, 「援助技術」, 「コミュニケーション技術」, 「老年学の知識」を重要とする割合は、痴呆高齢者とその家族等の方が、他の患者会の会員と比較して有意に多かった ($P<$

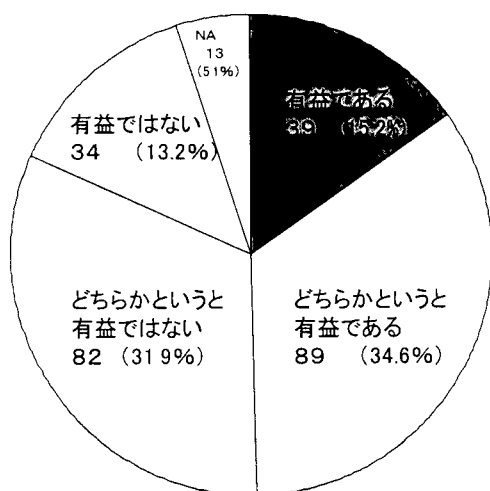


図7 介護保険の有益性 (N=257)

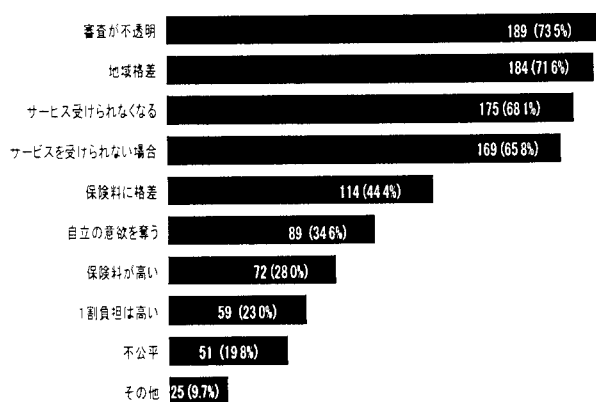


図8 介護保険の問題点 (複数回答)

0.01)¹⁾。また、「リハビリテーション技術」に関しても多い傾向が見られた。その理由として、痴呆高齢者とその家族等の場合、高齢者自体が多く、まさに「高齢者ケア」の対象者で占められていることが考えられる。これらの項目は、高齢者ケアの中では、いずれも重要であると予測されるものであり、高齢者である対象が期待を込めて、それらの項目を重視する回答をしたと考えられる。しかしその一方で、現在、受けている高齢者ケアに対する不信や不満が、回答をより積極的にしたという要因も考えられる。例えば、「医療に不満のある者」は、そうでない者に比べ、「思いやり」や「尊敬の心」除くすべての項目について、「重要である」と回答する割合が多かった。

医療に不満のある者は、精神的なケアよりも実質的なケアを重視している。「思いやり・愛情」については、医療に不満のないグループでは、97%の者が重視する回答をしたが、医療に不満をもつグループでは86%と、約10%少なかった。医療への不満の中でも、特に「医療技術」に不満のある者は、「思いやり・愛情」を重視する回答が有意に少なかった。彼らは「医療技術」、「治療技術」などの医療そのものの技術や「老年学の知識」のような高齢者自身を理解するための知識について、不満のないグループよりも重視する回答をしていることから、医療への不満は、高齢者ケアに対する彼らの関心を観念的で精神的なものから、より現実的で実質的なものへと移行させることが推察される。

さらに、立場の差も回答に影響を与えている。まず、女性は男性よりも「リハビリテーション技術」を重視しており、これは日本の介護の現状と大いに関係していると思われる。現在、日本の高齢者を介護しているのは8割以上が女性であり、中でも対象者の年齢と重なる中高年の主婦層である。介護に携わる機会の多い女性は、リハビリテーションが要介護の高齢者自身の身体的機能を回復させるだけでなく、介護者の負担をも軽減させることを高齢者の世話を通して知っている。女性は単に介護の利用者としてだけでなく、介護の担い手の視点からも「リハビリテーション技術」を重視していると考えられる。また、単身者に「援助技術」を重視する傾向が見られた。彼らは家族と同居している者のように、家族から有形無形の援助を受ける機会がほとんどないため、日常的な援助技術の重要性を意識していると推察される。そ

して、高齢者に対する「思いやり・愛情」、あるいは「老年学の知識」を重視する層は、現在の高齢者層ではなく、むしろこれから高齢者になる40代、50代の壮年層であった。彼らは家族の立場から、またケアを受ける立場から、老年学の知識に裏付けられた愛情深いケアが提供されることを期待していると考えられる。

高齢者ケアについて、重要とする回答が多かったことと対照的に、介護保険に対する期待は少なかった。特に女性にその傾向が強く、介護保険制度を有益としない回答をする者が多かった。その理由として、最も相関していたのは、「保険料が高いこと」であったのは、制度の導入により、月々の保険料という新たな負担に抵抗感があると推察される。それに加えて、同制度が身体的に自立している痴呆高齢者の介護度を低く認定する欠点を内在していることも考えられる。寝たきりで動けない高齢者よりも徘徊する痴呆高齢者の方が、家族の介護負担は大きく、介護労働の密度も高いのは周知の通りである。しかし、介護保険制度は、介護度の認定を食事や排泄等の介護にかかる時間で換算するため、身体的に機能障害がない痴呆高齢者にかかる介護労力は反映されにくい。彼らはたとえ、身体的には自立していても常に見守りが必要で、介護の手間はかかるが、そのことは介護度は反映されにくい。介護保険制度の問題点として、「審査が不透明なこと」に回答が集中したことからも推察される。

■ 結 論

痴呆高齢者とその家族等は、高齢者ケアに対して、多くのことを期待しており、それを提供する立場である医療従事者の役割は大きいと言えよう。彼らは、特に精神的ケアや日常的なケアを重視している。また、痴呆高齢者とのコミュニケーションをより充実させることを期待している。なお、介護保険制度については、それを有益とみなす者とそうでない者とがほぼ同数であったが、この制度が定着する過程を通して、再度、検討する必要がある。

尚、本研究は、「医療と介護に関する意識調査（文部省科学研究『現代医療問題の総合的研究』課題番号10410047）」の一環として実施したものである。

引用文献

- 1) 平岡敬子, 山内京子, 岩本由美他: 慢性肝疾患患者が期待する看護職の役割, 日本難病看護学会誌, 6(1), 32, 2001.

参考文献

- 江頭大蔵, 平岡敬子: 医師と患者の意識差～高齢者ケアと終末期医療の場合～, 第73回日本社会学会大会報告要旨, 203, 2000.
- 金沢光江, 金子きよ子, 平塚喜美恵他: 老人病等における家族の意識調査について, 福島農医誌, 36(1), 92-94, 1994.
- 浜田賀子, 日元淳子, 宮田とも子他: 老人ホームにおける看護と看護婦の役割, 看護学雑誌, 57(7), 631-636, 1993.

Nursing Care Desired by Demented Patients and their Family

Kure University, Faculty of Nursing
Keiko Hiraoka, Kyoko Yamauchi, Yumi Iwamoto

The essential matter in caring demented patients is not only to treat patients but also to provide care to family members specially to meet their emotional and psychological needs. In order to understand their needs, this study investigated what they desire and expect of medical team by surveying family members of dementia patients. Result showed that dementia patients and their family members had high expectations towards medical staff to fulfill a crucial role in providing care. The most important issues among the patients and their family were providing emotional and psychological care as well as providing daily nursing care. Moreover, it was significantly expected by patients and their family for medical team members to improve better communication among them.

Regarding new elderly long term care insurance, for those who are satisfied and those who are not satisfied are evenly divided. It was pointed out that there are some inconsistencies in evaluative process involved in qualifying for the insurance and in regional differences in coverage. Also, the strong correlation was made between long term care insurance with high premium cost and negative view toward this insurance system among dementia patients and their family.

Key words: Dementia patients, Geriatric nursing care, Opinions